

# 大台ヶ原&大峰山山行報告

【山行日】2021年 5月 28~30日(金~日)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 34,500円

【メンバー】CL:鈴木 SL大西

安西、石澤、島田、関、福島

28日 晴れ 大杉谷登山口から千尋滝、シシ淵等のビューポイントを経由し桃ノ木山の家へ

岩舟支所P3:00=大杉谷登山口 P10:10/10:40~

京良谷 11:20~千尋滝休憩所 12:40/12:50~シシ淵

13:40/13:50~桃ノ木山の家 15:20

5年前、大杉谷の清流と岩壁、大小様々な滝が織りなす溪谷美に魅了され、もう一度見てみたいと思っていた。

山行アンケートで大杉谷のリクエストがあり、今回は大峰山と併せて計画した。

新東名から伊勢湾岸道、東名阪道から伊勢自動車道、紀勢自動車道と走り、大宮大台ICで降りる。

コンビニで今日の昼食を調達する予定だったが、我輩が間違っ



った為、コンビニに寄ることが出来なかった。それでも何か食料品を売る店があるだろうと、樂觀して走って行くが店らしきものは見当たらなかった。皆さんに確認すると「食料は余分に持って来たので大丈夫」言ってくれたので、そのまま登山口に向かうことにした。宮川第三発電所手前の駐車場まで行き、一番奥のトイレ手前に車を止める。駐車場で各自持って来た昼食を食べ、支度を整えトイレを済ませたら出発する。発電所の先が登山口になり、案内板の前で出発前の写真を撮る。登山道を進むと直ぐに岩を削った狭い道になり、左側は切れ落ちた崖で右の岩壁には滑落防止のクサリが横に張ってある。

クサリにつかまりながら慎重に進むと、大日岨吊橋が現れ支沢を渡って行く。眼下には宮川の清流が望め、透き通った宮川ブルーに「ウワ~綺麗」と歓声上がる。能谷吊橋・地獄谷吊橋と連続して支沢を渡り、しばらく宮川左岸に付けられた道を進む。日浦杉吊橋を渡ると対岸の上部に滝が見えるようになり、滝を左手に見ながら進むと千尋滝前休憩所に着く。千尋滝は大杉谷にある7つの滝のうち、一番落差がある巨瀑である。はるか高く、天から降り注いでいるように見えることから「天空の滝」とも言われるそうだ。東屋があるが薄暗くヒルが居るので、落ち着いて滝を見学できない。ここから谷は大きく右に曲がり、西に向かって進むようになる。沢沿いの狭い道をアップダウンを繰り返しながら進み、1時間ほど歩くと大杉谷1日目の絶景ポイント「シシ淵」に着く。そびえる岩とその間から望む滝のコントラストは、自然が作り上げた至極のアートである。いつまでも眺めていたい気持ちを抑え、記念写真を撮ったら桃の木山の家に向って出発する。クサリを頼りに岩場を登り、谷から高い登山道を歩くようになり、シシ淵の奥に見えた滝が間近で見えるようになる。



ニコニコ滝といわれる滝で、水しぶきを上げながら轟いている様子は、ダイナミックな自然を感じられる。すぐ先に平等岩と言われる巨大な岩壁があり、長い吊り橋で谷を渡るが、対岸からもカメラに収まり切



らない程のスケールである。ここから少し谷から離れた登山道を歩くようになり、途中の大杉谷の大きな標識のあるベンチで休憩する。ここから20分ほど歩くと対岸に赤い屋根の桃の木山の家が見え、吊り橋を渡って山の家に到着した。検温と消毒をしたら受付を済ませ、男女別の個室に案内される。ここは山小屋であっても入浴が出来、荷物を整理したら浴室に行き、名物のヒノキ風呂で疲れた体を癒す。風呂から上がった後反省会が始まり、ビールやお酒で乾いた喉を潤した。夕食の時間になり1階の食堂でいただくが、名物のエビフライとトンカツはボリュームたっぷり、揚げ

たてのアツアツでメッチャ美味しかった。夕食が済んだら部屋に戻り、明日の早立ちに備えて早めに就寝する。

**29日 晴れ 桃ノ木山の家から七ツ釜滝、光滝、堂倉滝等大杉谷の核心部を遡行し、石楠花平から日出ヶ岳山頂に登って大台ヶ原Pに下山し、洞川温泉「奥村宗助旅館」へ向かう**

桃ノ木山の家 6:45～七ツ釜滝 7:20/7:30～崩壊地 8:30～光滝 9:00～堂倉滝 9:20/9:30～堂倉避難小屋 10:50～石楠花坂 11:10/11:40～シャクナゲ平 12:20～日出ヶ岳 13:30/13:45～大台ヶ原P 14:25/14:45＝奥村宗助旅館 16:35

朝5時に起床し外を見ると青空が見えるではないか。！！今日が一番晴れてほしいと願っていたので、神様は我々に味方してくれたと感謝した。朝食は前回5時半と30分早めてくれたが、今回は6時と通常通りの時間と言われた。6時5分前に食堂に行き、美味しい朝食をいただいた。車を回送してくれる島田さんは、6時30分に出発し大杉谷登山口駐車場まで下り、車を大台ヶ原駐車場に回してくれる。



我々は山の家を出てストレッチを行い、予定より15分遅れて6時45分に出発し、七ツ釜滝を目指す。七ツ釜滝は本日のコース一番のビューポイントで、日本百名瀑にも数えられる景勝地である。落差約80m、数段に分かれた滝と滝壺が連続し、スケール・水量共に見応え十分の滝である。休憩小屋でゆっくり休憩を取り水分を補給し、絶景をカメラに収めたら出発す

る。滝上に登ると直ぐに吊り橋を渡り、右岸の崖につけられた滑りやすい道を歩き、エメラルドグリーン流を見下ろしながら進む。スリル満点の道に歩きが慎重になり、予定より遅れ始める。昨夜の雨で岩が滑りやすく、渓谷歩きは遅れても仕方がないと腹をくり、景色を楽しみながらのんびり歩を進める。間もなく2004年の豪雨災害で起きた崩落地を通過し、豪雨被害の大きさを実感する。一旦河原に下りた平らな砂地で休憩し、トマトや菓子を食べてエネルギーを補給する。光滝を過ぎ、隠滝手前で隠滝吊橋を渡り、隠滝を見ながら左岸に付けられた道を進む。いくつもの滝を見ながら歩くコースは素晴らしく、皆さんが「思い切って参加して良かった」と喜んでくれた。



歩いて来た人だけが見ることが出来る、自然が作り上げた芸術品である。

まもなく堂倉吊橋で右岸に渡り、すぐ先の堂倉滝吊橋は堂倉滝の絶景を見ながら左岸に渡る。

堂倉滝は大杉谷溪谷7つ目の滝で、落差は無いが水量が多く迫力満点の滝である。吊り橋を渡った所



で休憩し、カリントウやチョコを食べながら絶景を楽しむ。ここからは沢を離れ、いよいよ日出ヶ岳への登りが始まる。樹林帯の中、急坂を九十九折れに登るようになり、今までの緩やかな登山道と違い息が上がる。しばらく急登が続く、会話も無く黙々と高度を稼いで行く。尾根に登り上がると傾斜が緩くなり、会話が聞こえるようになった。尾根を進むと林道に出て、そのまま林道を進む栗谷小屋に行けるが、今回は左の登山道を進み堂倉避難小屋へ向かう。針葉樹林帯の尾根を登り、栗谷小屋からの道と合流した先のシャクナゲ坂でランチタイムとする。

ランチは桃の木山の家のお弁当。大きな肉が入ったチマキが2個と、卵焼きやカラアゲ等が付いた豪華な弁当だ。お湯を沸かしインスタントみそ汁を作り、とても美味しくいただいた。ここから山頂までが一番きつくなると思っていたが、シャクナゲやシロヤシオの花が見られるようになり、疲れを癒してくれる。さらに登るとアケボノツツジも見られ、「エ〜これがアケボノツツジなの？綺麗」と歓声が上がる。シロヤシオとシャクナゲ、アケボノツツジの競演に、皆さんの足取りも軽くなりとても楽しそう。急坂を登ったピークで中国の若者グループが休憩しており、この付近はアケボノツツジの花に包まれていた。シャクナゲ平は一面シャクナゲの花で溢れ、少し見頃は過ぎていたがそれでもまだまだ見応えがある。段々高度が上がると山頂が近づくと、シャクナゲの花が見頃でピンクの花のトンネルを登るようになる。この先から笹に覆われた緩やかな登りになり、立ち枯れた木々の間を登ると日出ヶ岳山頂に着く。山頂には大きな展望台が建ち、多くの登山者や観光客で賑わっていた。山頂標識で記念写真を撮り、展望台に登って眺望を楽しむ。

晴天に恵まれて展望が良く、尾鷲湾や明日登る大峰山脈の山々が見渡せた。展望台の下で休憩し、菓子を食べて疲れた足を休める。



ここから大台ヶ原駐車場まではおよそ30分。広い登山道を南に下って分岐を右に進み、トウヒの原生林の中に付けられた遊歩道を下ると広い駐車場に着く。車が来ているか見渡すとまだ来てないようだ。トイレまで行きTELしていると車が到着した。途中の道の駅でサンマの押し寿司を買ってきてくれ、皆さんが美味しいと頬張っていた。車に乗ったら今宵の宿「奥村宗助旅館」に向かう。国道169号線から国道309号線を進むが、309号線は超狭くてカーブが連続し、対向車とのすれ違に難儀する。明日の大峰山山行の登山口を確認し、洞川温泉に向かうがあまりの酷い道路

に、運転手は神経をすり減らしたようだ。無事宿に着き部屋に落ち着いたら温泉に浸かる。今日の宿は我々だけの貸切で、広い温泉にのびのび入れ疲れが和らいだ。そしてこの宿の夕食が素晴らしかった。女将のおもてなしも最高だったが、料理の一品一品に心がこもりとても美味しくいただいた。地元の人しか食べられない「朴の葉すし」がサービスで出され、皆ニコニコ顔で食べていた。皆さん大満足で完食

し、「もう一度泊まりたい宿だね」と満足そうに話していた。夕食が済んだら部屋に戻り、明日の早立ちに備えて早めに床に就いた。

**30日 晴れ 早朝5時に旅館を出て、トンネル西口登山口から登山開始し、弥山・八経ヶ岳に登ってトンネル西口登山口に下山し、岩舟支所に帰着する。**

旅館 5:00＝トンネル西口登山口 5:30/6:00～奥駈道出合 7:10～弥山 8:30/8:40～八経ヶ岳 9:05/9:15  
～弥山 9:40～トンネル西口登山口 11:40/11:50＝かどや食堂 12:30/13:30＝岩舟支所P21:30:

朝4時に起床し宿のおにぎりをいただく。今日も天気は上々で雨の心配は無く、CLとしては一安心。車を宿の前に回し、荷物を積んだら出発する。早朝にもかかわらず、宿の御主人と女将が見送ってくれ



感謝の言葉を告げて車を走らせる。昨日通った悪路を登山口駐車場まで行くが、早朝なので対向車が無くスムーズに駐車場に着く。行者還トンネル西口に有料駐車場があり、早朝から係員が居てトイレも完備している。準備を整え、トイレとストレッチを済ませて出発する。道路を渡り道標に従って登山口を進むと沢を渡り、自然林の登山道を登って行く。高度を上げて行くとシロヤシオの花が見られる様になり、急坂を登り切ると大峰奥駈道出合に出る。ここを左に行くと山上ヶ岳方面、右に行くと弥山から八経ヶ岳に行く。休憩したら弥山方面に進むが、2人はゆっくり登りたいというので2班に分かれて登るこ

とにする。尾根の両側にシロヤシオが沢山咲き、思いがけない花の歓迎に心が躍る。ゆるやかなアップダウンを繰り返しながら尾根道を進み、三角点のある弁天の森を過ぎ、ブナの原生林を行くと聖宝宿跡に着く。聖宝宿跡には、触れると雨が降ると伝わる大峰中興の祖「聖宝理源大師」の坐像がある。休憩を取り果物や菓子を食べ、水分を補給する。ここから弥山への最後の登りに掛かり、木の階段の登りが連続する。さらに急坂を登り切ると傾斜が緩やかになり、明るい登山道を進むと弥山小屋の広場に着く。弥山小屋の隣には大きなトイレが建ち、ベンチやテーブルもあり大休



止する。この奥が弥山山頂なので、鳥居をくぐってほんの少し登ると天河弁財天社の奥社が建っている。山頂で記念写真を撮ったら弥山小屋広場に戻り、大峰最高峰の八経ヶ岳へと向かう。弥山と八経ヶ岳はゆるやかな吊尾根で結ばれており、弥山から30分足らずで二等三角点標石のある八経ヶ岳山頂に着く。山頂は狭いが展望は抜群で、展望を楽しんだら往路を弥山まで戻る。弥山からも往路に戻るが、下



りは余裕があり会話が弾む。

聖宝宿跡まで下ると大勢の登山者が休憩しており、密を避けて休まず通過する。下りではシロヤシオの花が登りよりも良く見え、「エ～こんなに花が咲いていた？」と驚くくらい綺麗だった。奥駈道出合で休憩し、水分を補給したら最後の下りに掛かる。急坂を軽快に下り、登山口手前で2人の姿が見え一緒に駐車場に戻った。靴を履き替えたなら車に乗り帰路につく。帰りは岩舟支所までナビ任せで、ナビに天川村へ向かうよう案内された。天川村のかどや食堂で昼食を食べたが、夫婦で営む店で出てくるまでに時間が掛かった。

ここからもナビの指示に従って橿原市に向かい、京名和自動車道から西名阪道を進む。

亀山JCTから東名阪自動車道に入り、御在所SAでお土産を買い、伊勢湾岸道から新東名高速を通過して無事岩舟支所に帰着した。

日本有数の多雨地帯にもかかわらず3日間晴天に恵まれ、豊かな自然と歴史の道を歩き記憶に残る山旅となった。

